

2022 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 医療総合学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|--------|-----------------|--|------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名 | 測定と評価 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 60 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 2年 | | 学期及び曜時限 | 通年 | 教室名 | 405 |
| 担 当 教 員 | 吉田 朱花 | 実務経験と その関連資格 | ATとしてスポーツクラブ所属 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 必要とされる評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践出来るようになる | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 1. 授業内課題 2. 期末テスト 3. 出席・平常点 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 公認スポーツ指導者養成テキスト | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 解剖学、運動学、運動生理学などの基礎知識が不可欠な為、これらの基礎知識について繰り返し復習しておくこと | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 本科目で履修する内容について、学問的側面のみならず、現場での具体的な活用法を常に考察しながら理解を深める努力をすること。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 評価についてその意義と考え方を理解出来るようになる | 教科書 | 当該範囲の事前学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション、検査・測定と評価とは | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 関節可動域検査、徒手筋力検査、整形外科的検査の目的と意義が説明でき、理解出来るようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 関節可動域検査、徒手筋力検査、整形外科的検査の概論 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 肩関節の運動学を理解し、関節可動域検査が理解出来るようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 肩関節の解剖学、運動学、関節可動域検査 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 肩関節の徒手筋力検査の意義を理解し、実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 肩関節周囲筋の解剖学、徒手筋力検査 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 肩関節の整形外科的検査の意義を理解し、実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 肩関節に多い外傷と障害、整形外科的検査 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|------|--------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 肘関節の運動学を理解し、関節可動域検査、徒手筋力検査が実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 肘関節の解剖学、関節可動域検査、徒手筋力検査 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 肘関節の整形外科的検査を理解し、実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 肘関節の外傷と障害、整形外科的検査、股関節の運動学 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 股関節の運動学を理解し、関節可動域検査、徒手筋力検査が実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 股関節の運動学、関節可動域検査、徒手筋力検査 | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 股関節の整形外科的検査を理解し、実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 股関節の外傷と障害、整形外科的検査を理解し、実践できる。 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 膝関節の運動学を理解し、関節可動域検査が実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 膝関節の運動学、関節可動域検査 | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 膝関節の徒手筋力検査、整形外科的検査の意義を理解し、実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 膝関節の徒手筋力検査、整形外科的検査 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 足関節の運動学の理解し、関節可動域検査が実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 足関節の運動学、関節可動域検査 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 足関節の徒手筋力検査、整形外科的検査の意義を理解し、実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 足関節の徒手筋力検査、整形外科的検査 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 体幹部の関節可動域、徒手筋力検査、整形外科的検査の意義を理解し実践できる。 | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 体幹部の関節可動域、徒手筋力検査、整形外科的検査 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 各部位における関節可動域検査、徒手筋力検査、整形外科的検査を理解し、実践できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 前期まとめ | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|------|-----------------------|
| 第16回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 評価におけるスポーツ動作の観察・分析についてその目的と意義を理解し、説明出来るようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | オリエンテーション、評価におけるスポーツ動作の観察・分析の目的と意義 | | |
| 第17回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 歩行動作のバイオメカニクスを理解し、説明できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 歩行動作のバイオメカニクス | | |
| 第18回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 歩行動作に影響を与える機能的・体力的要因を理解し、説明できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 歩行動作に影響を与える機能的・体力的要因 | | |
| 第19回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 外傷・障害の発生機転となる歩行メカニズムを理解し、説明できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 外傷・障害の発生機転となる歩行メカニズム、歩行観察の実践 | | |
| 第20回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 走動作のバイオメカニクスを理解し、説明できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 走動作のバイオメカニクス | | |
| 第21回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 走動作に影響を与える機能的・体力的要因を理解し説明できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 走動作に影響を与える機能的・体力的要因 | | |
| 第22回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 外傷・障害の発生機転となる走動作のメカニズムを理解し説明できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 外傷・障害の発生機転となる走動作のメカニズム、走動作の観察 | | |
| 第23回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ストップ・方向転換動作のバイオメカニクスを理解し説明できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス | | |
| 第24回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ストップ・方向転換動作に影響を与える機能的、体力的要因を説明できる。また、外傷・障害の発生機転を理解し説明できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | ストップ・方向転換動作に影響を与える機能的、体力的要因 | | |
| 第25回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 跳動作のバイオメカニクスを理解し、説明できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 跳動作のバイオメカニクス | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|------|--------------------|
| 第26回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 跳動作に影響を与える機能的・体力的要因を理解し説明できるようになる。また、外傷・障害の発生機転を理解出来るようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 跳動作に影響を与える機能的・体力的要因、外跳動作の観察 | | |
| 第27回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 投動作のバイオメカニクスを理解し説明できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 足関節の運動学、関節可動域検査 | | |
| 第28回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 投動作に影響を与える機能的・体力的要因を理解し説明できるようになる。また、外傷・障害の発生機転を理解できるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 投動作に影響を与える機能的・体力的要因、投球動作の観察 | | |
| 第29回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | あたり動作のバイオメカニクスを理解し、説明できるようになる。あたり動作に影響を与える機能的・体力的要因を理解し説明できるようになる。 | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | あたり動作のバイオメカニクス、あたり動作に影響を与える機能的・体力的要因を説明できる。 | | |
| 第30回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 各動作における観察・分析が理解でき評価ができるようになる | 教科書 | 前回範囲の復習と、当該範囲の事前学習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 後期まとめ | | |